

## 平成4年度調査報告 山陰地方の遺跡及び博物館施設

角田 芳 昭

考古学等資料室所蔵の諸資料について毎年その出土地の確認、写真撮影、資料収集などの調査を実施し、その結果を本誌及び紀要等へ報告してきた。平成4年度は山陰地方の遺跡及び博物館施設を調査見学したので、ここに報告しておきたい。

本学所蔵資料出土地としては鳥取県東泊郡由良村（旧地名・以下同じ）、大谷野、太一垣、南谷村、西泊郡高麗村、島根県美濃郡宇賀庄、簸川郡檜山村等出土の石斧、石錘、石鎌、石棒等と土器である。文学部網干善教教授（資料室管理運営委員長）が同行指導して下さった。

9月25日早朝J R京都駅を出発し12時55分鳥取駅に着く。まず「鳥取県立博物館」を見学する。「県民の教育、学術および文化の発展に寄与するため」の施設として久松山下鳥取城跡内に設立され、昭和47年10月に開館、自然系、人文系、美術系の3部門を展示する総合博物館である。敷地14,228m<sup>2</sup>、床延面積9,669m<sup>2</sup>で地下1階、地上3階の建物で、県民期待の施設で充実した展示がなされていた。地学生物、歴史民俗、美術の各展示室に郷土との関連した展示があり、わかりやすく、また音声を使ったビデオなど解説されており、調査研究の成果なども盛んで、当地域における中心的施設であると感じた。見学を終えたところで長岡充展氏（鳥取県埋蔵文化財センター技師）に出迎えられ、次なる見学地「渡辺美術館」（鳥取市覚寺堤下1-55-1）へ着く。当館は医師渡辺元氏が数10年に亘って収集された古美術品を展示したもので、元のボーリング場を展示場にされており、膨大な資料であ

るが、玉石混淆というところで、資料を精選され学術的に整理し、解説されることを望みたい。今後の発展を期待したい。その後岩美郡国府町の諸遺跡を見学した。「大伴家持の歌碑」「岡益の石堂」「因幡国庁跡」同「正殿跡・南門跡」等である。岡益の石堂は安徳天皇御陵参考地に指定され宮内庁管理となっているが、6m米四方の基壇の上に厚さ40センチ前後の壁石でかこった石室が造られ、石室の中央に柱基があり、その上にエンタシス（胴張り）のある円柱が建っている。この上にマス型をした中台が2つのっており、7世紀頃の建立と考えられている。当地方での珍しい遺跡でこの地方を訪問された折には一見してもらいたいものである。この南方1.5kmのところ「梶山古墳」が存在している。この古墳は魚の彩色壁画が発見され著名となったが、近年の調査で八角墳ではないかとの説も出され、新たな話題を呼んでいる。夕刻「ニュー鳥取ホテル」到着、旅装を解いた。

第2日目はご案内を依頼しておいた島根県教育庁文化課兼埋蔵文化財センター主事鳥谷芳雄氏のお迎えを受け、長岡充展氏とご父君健二氏も同行案内下さることとなった。梶山古墳見学後、気高町「寺内廃寺」を見学する。ここは以前関西大学考古学研究室において発掘調査し瓦など多量の出土遺物があったので、なつかしく見学した。現在はうめ戻されている。ひき続き車にて除々に西へ移動し「羽合町歴史民俗資料館」を見学する。国指定重要文化財「長瀬高浜遺跡」出土の土器、石器、小銅鐸などが展示されている。また西へと移り本学資料出土地（石斧・石棒等）の「太一垣」へ着く。なだらかな丘陵で古代人の住居とするには誠に暮し良い場所である。周辺の田の畦道を徘徊し遺物を捜したが発見できなかった。国道の片側に「太一垣」の表識が淋しく建っていた。午後より倉吉市へ入りまず「倉吉市博物館」を見学させていただいた。美術収蔵庫とその空調について主任学芸員前田明範氏のご説明を受け、空調の重要性を改めて識った。また根鈴輝雄、真田真幸学芸員のご案内で常設展示と特別展示「瓦経展」を見学した。全国の多数の瓦経が展示され、その形

(16ページに続く)



太一垣出土 石斧

状、歴史などについて学術的に解説されいたことに学ぶべきことが多かった。夕刻「米子国際ホテル」に着き旅装を解く。

第3日目の9月28日も早朝出発し出雲国庁跡、国府跡を見学の後「島根県立八雲立つ風土記の丘資料館」につき本間恵美子学芸主任のご案内にて館内を見学する。昭和43年10月国の庁議において決定され、土地の公有地化が図られ、47年9月9日開館された。考古資料を中心とした古文書、大刀、鏡、出雲風土記写本など3000点が系統的に展示されている。『研究紀要』『館報』等毎年発行され、当地方におけるリーダー的存在である。この敷地内にある岡田山1号墳を見学した。ここより出土した刀剣の調査で昭和58年刀身部分から「額田部臣」等の銘文が発見され話題をまいたことは記憶に新しい。続いて県指定史跡「岩屋後古墳」「山代郷正倉跡」「八重垣神社」を見学した後、玉湯町立出雲玉作資料館を見学した。規模は小さいが全国唯一の玉の専門館であり、史跡公園の東側高台にある。玉の原石の展示「めのう細工」「布志名焼」の歴史も展示されており、郷土の歴史を知る上で貴重な施設である。歴史的著名な場所においてはこのような資料館が全国に建てられることを望みたい。玉造温泉とともに「史跡と古代ロマン」

を求めて見学者が全国より来られている。玄関横に6世紀前半の築造と思われる鳥場1号墳があり石棺が見える。続いて世上を賑わせた著名な「荒神谷遺跡」を見学した。昭和59年全口の弥生時代銅剣の総発見数を上回る358本の銅剣が発見され、翌60年7m離れた場所で銅鐸6点と銅矛16本が同時に発掘された。当時の出雲の国の政治的文化的、地位の高さが推し測られる。夕刻出雲大社へ参拝し、調査の無事を祈願し、湖北道路を東へと向い松江温泉「ホテル一畑」へ投宿した。宍道湖面に夕日が美しく映えた。

第4日目は仲仙寺古墳群、史跡岩舟古墳を見学の後「足立美術館」を見学した。入館料2,300円は高いが、大観の絵、寛次郎、魯山人の陶芸品を見、雄大な自然の峰々と庭園の織りなす風情は最高である。近郊へ出向い折など一見して損はない美術館である。続いて本学資料出土地西伯郡高麗村長田地区及び高井谷村を調査し位置の確認を行なった。その後重文指定の「石馬」ある淀江町の遺跡を見学した。安江禎晃教育長をはじめ中原斉、高口勝人、(県派遣)、中山和之、岩田文章氏等のご案内にて上淀廃寺とその出土資料である壁画等を見学させていただき無事終了し米子より帰路についた。その他ご案内いただいた多くの方々にお礼申し上げます。

## 編集後記

第27号をお届けいたします、今回もお忙しい中ご執筆いただきました諸先生方に厚くお礼申し上げます。

近年新聞、雑誌などで大学に関する記事が多くなり、また日旺など定期的に報道されている新聞も見かけます。大学における自己評価、自己点検も行なわれ受験生達もそれを参考に大学選びが始まっているともいわれています。本学も100余年の伝統を有し、多数の校友のご協力と法人の努力により、順調に充実発展してきましたが、大学の冬の時代となり、

やはり危機観もひしひしとせまっております。教職員一同智慧をしばりこの難問に対処していきます。本彙報もその意味で懸命に努力していきたいと思えます。「開かれた大学」として公開講座も順調に推移しております。関係者の皆様の一層のご指導ご協力をお願いするものであります。

表紙の写真は「銅戈」であり朝鮮半島渡来といわれ、戦国時代の遺物です。青銅製の武器で刃部は尖鋭極めて実用性にとむ形式です。下図写真26.8cm。 【角田芳昭】